

Genta Kamiyama
神山玄太

Shinichiro Fujihara
藤原伸一郎

Shuichi Hirose
廣瀬集一

Issei Shimizu
清水一成



地域公共交通を守る。

気になるあの人を訪ねて。

議員のいちばんの役割は住民の声を聞くこと。このコーナーではこうふ未来のメンバーが、話を聞いてみたい人のところに会いにいきます。今回は山梨交通代表の雨宮正英さんに地域公共交通について伺いました。

Vol. 01

昭和20年から続く、山梨を代表するバス会社

神山 きょうは「地域公共交通を守る」というテーマで、山梨交通株式会社の雨宮正英社長から話を伺っていきたくと思います。よろしくお願いたします。

雨宮 よろしくお願いたします。実は、日本でバスが走り始めて、ちょうど120年目なんです。

藤原 120年ですか！

雨宮 そう。120年目ですが、コロナ禍もあり本当に大変で、先日日本全国からバス事業者が集まって「バス危機突破 総決起大会」という会が開かれるくらい、路線維持が厳しい状況にあります。小泉政権時の規制緩和前は400社程度だったのが、今では2000社を超えるバス事業者があります。

廣瀬 2000社ですか。

雨宮 路線バス事業の元々の発祥は、明治時代から大正時代にかけて、それぞれの集落から、その地域の主要地点まで行くための路線

を、各集落でつくったことにあります。例えば山梨では、南アルプス市にある在家塚っていう集落、むかし在家塚村だった頃にその一番の地主さんが自分の財力を使って甲府と往復させる自動車交通を始めるわけです。そうすると、隣の飯野村でも、その地主さんもうちの村からも甲府までって。そうやって自動車交通が広がっていったんですね。そしてそんな地域のバス路線が集約されて、昭和2年に県下のバス事業者と一緒にまとまって仕事しようとなって、山梨交通の前身の山梨開発協会バスっていうのができたんです。

清水 山梨交通ももとはそれぞれの集落の大切な住民の足だったんですね。

雨宮 山梨開発協会っていうのは、バス事業と昇仙峡開発をやった会社です。甲府の人たちは昇仙峡開発が観光にとって大事だとして、バス事業と観光開発の両方をやる会社として山梨開発協会が設立されました。協会という名前だけだと株式会社なんです。

神山 そんな歴史のある山梨交通も地域路線バスの維持の状況はどうでしょうか。

雨宮 東京、大阪、名古屋の大都市、政令指定都市などの都市は路線バス事業が利益を生むんですけど、それ以外の地域では全部赤字です。本全国の約90%以上の路線バス事業が赤字です。

ではどうして路線バス事業者が生き残っているかという、路線バス事業以外の観光バス事業などを兼営して、その利益で路線バスの赤字を埋めて、それで会社を黒字にして生き延びているんです。これが日本の公共交通維持の仕組みです。それでコロナになってバスのお客さんがほぼゼロになってしまった。鉄道もそうなんですけれども、1年間くら





いは利用者がいなかった。その時に、さあどうするんだってみんなで考えたけど、公共交通事業者には政治の手当も全く無かったんで、各会社、借入したんです。わが社もコロナ乗り切るために、十数億。従業員に賃金を払うために十数億借りました。

藤原 政治の手当で・・・申し訳ありません。

雨宮 日本バス協会の会長が書いた記事によると、コロナ禍の2年間で全国の路線バスの赤字は約4000億円にもなっているという

んです。路線を維持するため、従業員を守るため、みんな借りないわけにはいかなかった。でもこれを返すには20年くらいかかるっていう試算なんです。この間、飲食店には約5兆円もの協力があつたと聞きますが、路線バスはお客さんがゼロでも休むこともできず、動かし続けて燃料代も人件費もかけました。でも協力金も何もありませんでした。

廣瀬 本頭に頭が下がる思いです。

雨宮 極論かもしれませんが、いまの路線バ

ス事業がすべて公営交通になったらどうなるかと考えたときに、民間事業者だから4000億円の赤字、借り入れて済んでるけれども、公営交通だったらそれをすべて税金でまかなわなければならなくなる。自治体の負担は非常に大きなものとなってしまふ。この先、民間の路線バス事業者が立ち行かなくなり、すべてが公営交通になってしまふ負担を考えたら、もっといまの民間バス事業者を支援した方が自治体の負担は少なくて済むかもしれない。

清水 確かに、私たちの移動手段を維持するために、公共バス事業者への支援の在り方を考えるべきですね。どう支援するのがよいと思いますか。

雨宮 そうはいつでも赤字路線への補助はいただいています。でも、その補助金制度がそもそも現実に合わせてないんです。いま当社はバス路線が140あるんですが、そのうちの黒字路線って1路線、1系統だけで、あとの139路線は全部赤字です。

神山 黒字路線は1路線だけですか(驚)。

雨宮 そうなんです。139路線が赤字路線なのに、国、県と市町村の補助金対象は13路線にしかならないんですよ。補助にはさまざまな規定があつて、その規定をすべてクリアできる路線は13路線しかないということです。

藤原 実情と補助制度が合っていないんですね。

雨宮 そもそも補助制度の基本的な考え方として、路線バスは各会社の内部補填で維持するんだって書いてある。我が社の株主は社会的責任から容認してるけれども、公開された株主会社だったらもう大変。なんで株主配当を減らしてまで他の利益を赤字バス事業に回すのか、ということになる。とはいえ、この会社も社会的責任ということで運行している。

廣瀬 社会的責任ということで企業に地域交通の維持を押し付けていいんですかね。

雨宮 そう、おかしいでしょ。でも、そうやっ



てずっとなんとかやってきたんですよ。そしてコロナ禍になって、そしたらお客さんが全くなくなっちゃった。だけど法律でバスを動かさなきゃいけないんです。人件費だって払わなきゃならない、燃料費も高騰してきている、それで全国で4000億円も借りたわけですよ。

清水 公共交通を維持してほしいという自治体の要請があるならば、普通ならバス事業者を支援した方がいいに決まっている。

雨宮 甲府市の場合は、議会のみなさんにもご理解をいただいて、苦しいから少し多めに補助しようって決めていただきました。市町村によっては1万円とか2万円だけのところもあった。

神山 全然足りない。すずめの涙ですね。

課題に向き合いながら 地域の交通を支えていく

雨宮 これがいまの路線バスの現状です。次に深刻なのが運転士不足です。バスやタクシーの運転手はどれだけ運転したのかとい

うことが給与に関係していくんですね。コロナ禍で高速バスなんて運行自体が休止してしまつたので、転職せざるを得ない人もいた。転職した人戻ってこないですよ。いまバスもタクシーも運転手さんがいない。だいたい全国的に2割足りないって言われてるんです。

藤原 運転手さんがいなければ運行できないですね。

雨宮 もっと運転手さんに来てもらうためには、雇用条件を見直して、他の産業に見劣りしないくらい待遇を良くすることが必要です。そのために原資が必要で、10月1日に運賃改定をさせていただきましたが、消費増税分を除いて、実は25年間も値上げをしてなかったんです。

廣瀬 運転手不足やコロナ禍の影響で大変な状況はよくわかりました。これから地域の足を維持していくために、どのようなことを考えておられますか。

雨宮 私たちはずっと地域のみなさまの移動を支えてまいりました。燃料高やコロナ禍を経て運転手不足が生じているなど、この大変な状況をなんとか乗り越えていけるよう経営努力を続けてまいりますので、ぜひバスをご利用いただければ嬉しいです。

清水 甲府市も「みんなで支え未来に残す公共交通」として取り組みを進めています。私たちも利用できるときはバスを利用して、一緒に地域交通を残していきたいと思えます。きょうはありがとうございました。

information



山梨交通株式会社

本社：山梨県甲府市飯田 3-2-34
電話：055-223-0821
<http://yamanashikotsu.co.jp/>



新生「こうふ未来」！メンバー紹介

2023年5月1日から、今期の甲府市議会議員の任期が始まりました。
新たな気持ちで市政に励む、こうふ未来のメンバーをご紹介します。

NEW



廣瀬集一

Shuichi Hirose

1952(昭和27)年生まれ。千塚地区在住。
2007年4月、甲府市議に初当選。甲府市議会議長、甲府地区広域行政事務組合議会議長などを務め、現在は5期目で、議会運営委員会委員、環境水道委員会委員。



藤原伸一郎

Sinichiro Fujiwara

1978(昭和53)年生まれ。大里地区在住。
2015年4月、甲府市議に初当選。民生文教委員会副委員長、リニア・公共交通調査研究会副会長などを務め、現在は3期目で、副議長、経済建設委員会委員。



神山玄太

Genta Kamiyama

1982(昭和57)年生まれ。北新地区在住。
2011年4月、甲府市議に初当選。民生文教委員会委員長、議会基本条例特別委員会副委員長などを務め、現在は4期目で、議会運営委員会委員長、総務委員会委員。



清水一成

Issei Shimizu

1976(昭和51)年生まれ。東地区在住。
2023年4月、甲府市議に初当選。民生文教委員会委員、広聴広報委員会委員、甲府地区広域行政事務組合議会議員。

代表あいさつ

甲 府市議会会派「こうふ未来」も2期目のシーズンに入りました。今期は、初当選した清水一成議員を新たに加え、廣瀬集一議員、藤原伸一郎議員、そして私の4名のメンバーで活動していきます。5月に開かれた臨時議会において、藤原伸一郎議員が副議長に、また私も議会運営委員長に選出され、議会の運営に関わる機会がこれまで以上に増えています。甲府市議会は議会基本条例を制定し、市民福祉の向上のために二元代表制のもと市長等と善政競争することを明記しています。委員会などの場で議員間の討議も活発になってきており、市民のみならずからいただいた意見や思いを議会としてどう実現していくのか、検討を行っています。こうふ未来も議会運営に関わる中で、市民意見を起点とした政策サイクルを議会に根付かせるよう、引き続き、政策的議論を通じて、中核市にふさわしい議会づくりを進めてまいります。(神山)

ドキュメント 5.1

4月に行われた甲府市議会議員選挙から5月22日に行われた臨時議会までの議会の動きを「ドキュメント 5.1」としてお伝えします。

4月16日(日)

甲府市議会議員選挙告示日。現職から廣瀬集一、藤原伸一郎、神山玄太、川崎靖が、そしてのちに会派に加わる清水一成が新人として立候補。

4月23日(日)

甲府市議会議員選挙投票日。廣瀬集一(1,372票)、藤原伸一郎(1,924票)、神山玄太(3,174票)、川崎靖(1,432票)が無事に再選。清水一成(1,803票)が初当選。

4月24日(月)

会派こうふ未来への入会を依頼するため、初当選した新人議員を訪問。7名の新人議員のうち、会派所属先が明らかではなかった4名の議員に会派こうふ未来について説明。

4月25日(火)

当選証書授与式が開かれる。



この間、各会派間で新人議員への入会勧奨が活発化。他会派現職議員の会派異動も明らかに。清水一成が会派こうふ未来への入会を固める一方、川崎靖からまさかの会派こうふ未来から離脱、他会派への異動の申し出を受ける。

4月28日(金)

会派会議を開き、新人の清水一成も参加し、入会を確認した。



5月1日(月)

今期の甲府市議会議員の任期が始まる。会派結成届の締め切り日でもあり、会派こうふ未来は、廣瀬集一、神山玄太、藤原伸一郎、清水一成の4名で届け出た。新任期最初の会派会議を開催。



これからこの4人でがんばります!

5月臨時会に向けて会派間でのポスト調整が活発化。会派こうふ未来からは、副議長選挙に藤原伸一郎が立候補することを決定。

5月19日(金)

議長及び副議長選挙に向けた所信表明会が開かれ、副議長候補として藤原伸一郎が所信を表明。

5月22日(月)

令和5年5月甲府市議会臨時会が開かれ、副議長選挙の結果、藤原伸一郎が第115代甲府市議会副議長に当選した。また議会の運営に関する事項を所管する議会運営委員会委員長に神山玄太が互選された。

藤原伸一郎の

市民に開かれた議会を目指して

— 副議長、道中記 —

改選後、新たに7名の新人議員が加わりスタートした甲府市議会。選挙が終わると、会派拡大に向けた新人議員を勧誘し、重要ポスト獲得のため会派間で協議、調整が行われるのが政治の常です。今後の4年間、自身の考え、思いを具現化していく為には、激しい政局も時には必要です。

地方議会に政局なんてあるのかと思っている方もいるかもしれませんが、改選期はこの議会でも起こっています。私が所属する会派こうふ未来は所属4名で第4会派、なにもしなければ議会の中で埋没していくことは数の理論からすれば当然。しかし簡単な足算でいかなないのも政治の面白いところで、現に前任期でも、こうふ未来から議長を出しており、これは他の地方議会ではあまり例がない事なのです。

選挙後、会派間の協力体制構築のため、政策、考え、思いを語り合い共有していきます。そして、ここで出てくるのが各ポスト（議長、副議長、監査委員、各常任委員長など）配置をどうするかということ。きな臭い話を感じる方もいるかもしれませんが、どの議員も選挙で訴えた政策を具現化していく為に避けては通れない、政治家としての議会内の戦いがあると思っています。

甲府市も人口減少に伴う課題がいよいよ深刻化し、残念ながら少子化止まらず、高齢化はさらに進む。かなり追い込まれている今、これまでの常識を打ち破り、根本から変えていかなない限り、今の豊かさを維持していくことができなくなります。そして議会も岐路に立っています。議員一人一人が柔軟に、かつ豊かな発想をもって活発に議論を重ね、議会の活性化を図り、市民の負託に応えられる、真の開かれた議会運営を目指していかなくてはなりません。市民福祉の増進と市政の発展を目指し、二元代表制の一翼を担う議会機能が発揮できるよう努力してまいります。

COLUMN by SINICHIRO FUJIWARA



清水一成の

新人議員勇往邁進

昨年4月の選挙で甲府市議会議員になりました清水一成です。初めて議員となった人のことを1年生議員というそうです。今年47歳、大学、高校、中学と3人の子どもの父親であり、増えてきた白髪を気にしだしたいおっちゃんが1年生。むずがゆい感じがするのは自分だけでしょうか。そんな甲府小学校1年生議員は多くのことを学ばなければならない立場にあります。議会のルールや仕組み、本会議での行動、発言、スケジュール管理。もちろん市政の勉強や最新の市場調査まで。学ばなければならない事、やらなくてはならない事の多さに正直驚いています。これまでは地元で飲食店をやっていたので、まったく畑違いの世界の仕事に右往左往しています。今までの人生で最もあっという間に過ぎた1年でした。それでも議員になって一番驚いたのが先輩議員たちの新人への優しさです。選挙では議席を争った関係でもあり、初登庁日などはバッチバチの感じかと思いきや大きな勘違いでした。政党や会派が違って気持ちにかけただけ、時に優しく、時に厳しく指導いただける先輩議員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。会派こうふ未来についてですが、以前から知り合いであり選挙中も色々と指導してくれたこと、話しやすい関係であったこと、そして何より当選が決まった次に日の朝一に自宅までやってきて誘ってくれたこと。そういった理由から、ここにお世話になろうと即日決めました。4人の少人数会派のため、こんなにやるが多くなるとは思いませんでしたがw。頭を使うとお腹が減ることも知りました。特に勉強の多い会派に入り体重増加中です。今後は体重以上に知識と経験を増やし、1秒でも早く住民福祉の向上、地域発展に寄与できる市議会議員になれるよう頑張っていきたいと思えます。うんざりするほどの大器晩成型だとは思いますが、皆様なにとぞご指導よろしく願いいたします。

COLUMN by ISSEI SHIMIZU



information

～お知らせ～

私たち「こうふ未来」と語り合ってみませんか。

政策形成の起点は、市民の意見にあります。ぜひみなさんのまちづくりのお考えを聞かせてください。私たちからも声をかけさせていただきますが、こうふ未来のメンバーと意見交換をしてみたい!と思ってくださったみなさん、お気軽に連絡をください。活発な意見交換をさせていただきます。

メールアドレス：shigikai.kofumirai@gmail.com



会派「こうふ未来」は議会改革を進めています。

こうふ未来 廣瀬集一

会派こうふ未来は、2期目を迎えました。4人は甲府市のまちづくりや人そだてに東奔西走、南船北馬の活動をしています。更に策定された議会基本条例を確実に実践し、政策を提言し実現を図っています。大変個性的な仲間ですが、それぞれの得意分野も持ち合わせています。地道に地域活動を通して地域を見つめ課題を整理し、課題解決に向けて努力してまいります。是非皆さまのご意見をお届けください。